

まわして遊ぶ

ぐるぐるまわして
自分もまわる目もまわる

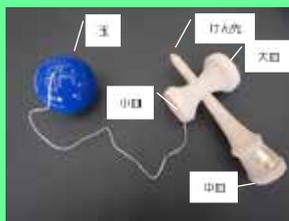


不安定なものが回転すると安定するという不思議さ。
人間の平衡感覚を生かしたり狂わしたりしながら、
いろいろなあそびが生まれてきました。

いろいろな伝承あそび

46 けん玉

けん玉（けんだま）は、十字状の「けん（剣）」と
穴の空いた「玉」で構成される玩具。日本をはじめ、
世界各国で遊ばれている。けん玉の技は300種と
も5万種ともいわれている。



皿系	玉を皿にのせる技
もしかめ系	所定の動作（主に2つの皿に交互にのせる）をくりかえし、持続時間を競う技
とめけん系	玉を垂直に引き上げ、けん先で受ける技
飛行機系	けんを玉の穴で受ける技
ふりけん系	けん玉を前方にふりだして、けん先で受ける技
一周系	玉をけんの大皿・小皿・中皿・けん先側の皿胴などの場所にのせる、またはけん先で受ける動作を連続して行う技
灯台系	けんを中皿を下にして玉の上に一定時間立てる技。またはある技が決まった状態からけん玉を放り投げて玉をとり、けんを玉の穴で受ける技
すべり系	けんにのせた玉をけんから離さずに別の場所へ移動させる技
まわし系	玉を空中で回転させ、けん先で受ける。またはけんを空中で回転させて玉の穴で受ける技
うぐいす系	穴がけん先側またはけんじり側の大皿（小皿）のふちに接した状態で、玉をけんに一定時間のせる技
極意系	玉を、けんの上の不安定な場所に一定時間のせる技。名前の由来は、けん玉が日月ボールと呼ばれていたころ（大正時代）に、最も難しい技とされていたことから。
静止系	けんを、不安定な状態で玉の上に一定時間のせる技
空中系	糸が張った状態で玉を投げ上げ、落ちてきた玉をキャッチしてけんを穴で受ける。またはけんをキャッチして、玉をけん先で受ける技
あやとり系	けんを糸で作った輪に引っ掛ける技

【検索：ピルボケ、ジャグジェラ、アジャクウク、すくいたまけん、KENDAMA】

47 ベーゴマ

大正時代頃から高度経済成長期にかけて、子どもたちにとても人気のあったあそび。

- ①遊技台を用意する。ゴザを長方形に折る、またはそのままの状態で台の上にかぶせる方法（関西式）や、タルやバケツの上にシートやビニールをやや弛ませて張る（関東式）といった方法がある。
- ②その上で複数人がベーゴマをまわし、誰のものが長く回転するかを競う。もしくは、ぶつけ合って弾き出された方が負け。
- ③勝った人が、競い合ったベーゴマをもらえるとというルール（いわゆる本気勝負）もあった。

*現在では、レトロブームの影響で細々と製造が続けられる一方、バイブレードとして新たな形で復活し、ベーゴマ VS バイブレード対決などを行っている所もある。

【検索：バイゴマ、ペチャ、ペ玉、中高、丸六、角六、高玉、バイ】

48 ぶんぶんゴマ

竹でできた細長い板の中心部分に2か所穴をあけ、ヒモを通す。それをぐるぐるまわして、「ブーン、ブーン」という音を楽しむあそび。牛乳パックや厚紙でも作れる。

- ①人差し指にヒモを掛けて、竹の板が真ん中に来るように調節する
- ②クルクル回して、糸を巻く。
- ③ある程度糸が巻けたところで両手を左右に広げると、コマがまわり始め、コマが止まりそうになったら、手を引っ張る。勢い良くまわり始めたら、手を緩める。これを繰り返すと、音が鳴り始める。

【検索：びゅんびゅんゴマ、松風ごま、ボタンスピナー】

49 皿まわし

指や棒、あるいは棒状の物の先端で皿や茶碗を回転させ、長さや技術、芸（曲芸）を競う。皿をまわしたまま手のひらや指、肩、腰、あごの上などでバランスをとる曲芸もあり、複数の皿を同時に操ることもある。

【検索：プレート・スピニング】

50 人工衛星とんだ

みんなで手を繋いで輪になり、♪ 人工衛星 人工衛星 とんだ♪と歌いながら走ってまわり、最後には手を放して遠心力を利用してボンととぶ。その後、じゃんけんをし、勝った手の形によって進める歩数を利用して、他の人の足に自分の足を引っ掛けて倒すあそび。無理な動きにならないように気をつける。

51 輪まわし

桶や樽の箍（たが）や自転車のリム（車輪）などの輪を棒でまわすあそび。木や鉄の棒を用意し、輪の溝や端を押しながら、倒れないようにバランスを取って走る。



変形コマまわし

子どもからプロまで、玩具から民芸品まで、コマの世界は幅が広い！

モノを、軸を中心として回転させるあそびで、どんでん返しで作ったり、画鋏をまわしたり、身近なものでもコマに変身できます。一般的には、軸の先は細くなっており、周りにバランスをとるための重りがついていて、時間を競う、ぶつけあう、技を競うなどいろいろな遊び方があります。また、コマには模様があって、回転すると色が変わって見えるなど、見る楽しみもあります。



<必要なもの>

厚紙（段ボールでも可） はさみ 糸 画鋏 爪楊枝 ペン 重り

52 変形コマまわし



①厚紙や段ボールなどを好きな形に切り、コマの本体をつくる。(♡・★・凸 など)



②糸に重り(クリップなど)をつけ、本体のフチを画鋏で固定し、糸を垂らし、印をいづける。



③画鋏の穴から垂らした糸に合わせて直線をかく。



④上記と異なるフチで②③を同様に行う。



⑤線が交差した所(重心)に穴をあけ、爪楊枝などを刺して固定して軸をつくる。



⑥好きな模様をかいて、軸をつまんで回す。

*軸を本体に対して、垂直にしっかり固定する。

*軸の根元を固定(粘土や段ボール、ガムテープ等でもOK)すると安定する。

いろいろなコマと歴史

コマは極めて古い歴史を持ち、エジプトでは紀元前 1,500 年頃のコマが発見され、日本では6世紀ごろにぶちコマのような木製の出土品があります。平城京跡や奈良県藤原宮跡等からも7～10世紀頃のものと思われるコマ、またはコマ型の木製品が出土しています。模様や形、色を塗ったコマを回すと、色が混ざったり、動いて見えたり、目の錯覚で使っていない色が見えたりします。赤と青のコマは色がとけあって紫のグラデーションに、白黒のコマは目の錯覚によりうっすらと虹のような色に見えることがあります。また、回転中のコマに顔を近づけて瞬きをくりかえすと、混じりあった色が分解されて見えたり、絵が立体的にとび出して見えるコマもつくれます。

(1) コマの種類

- **ひねりコマ**：軸を指でひねってまわすもので、最も簡単なコマ。
- **手よりコマ**：軸を両手のひらで挟んでまわす。
- **投げコマ**：胴体にヒモを巻き付け、コマを投げ出すことでまわす。
- **糸巻きコマ**：軸にヒモを巻き付けて、これをほどくことでコマをまわす。
- **ぶちコマ**：コマをまわし方で分けた場合の種類のひとつで、叩いてまわす。
- **逆立ちコマ**：まわすと逆さまに立つ。 など

(2) 遊び方・技

- **時間を競う**：同時にまわして速く倒れた方が負けなど、回転する時間を競う。
- **ぶつけ合う**：土俵を決めてそこで回転させ、互いのコマをぶつけてはじかれたら負け。
- **投げコマの技**：特定の場所を決めて投げる、いったん遠くへ投げつけておいて手元に戻し寄せる、自分の手のひらの上に投げる、綱渡りなどがある。
- **空中コマの技**：投げ上げる、他人との間で投げ合う、綱渡り、紐昇りなどがある。

(3) 神奈川県のコマ紹介

- **大山こま**：伊勢原市の大山地区の郷土玩具。大山信仰とともに発達し、「大山こまは良くまわる、世の中も良くまわりますように」と、大山参拝客の縁起物とされている。
- **片瀬こま**：湘南地域で遊ばれてきた手作りコマ。コマの本体は椿、心棒は檜の木が材料で、硬くて重い。コマをまわすひもには、麻を使用している。



大山こま



片瀬こま